

最近、新聞を購読していない教員が増えているといえます。インターネットで情報が得られるからよいと考えている人もいます。しかし、授業で新聞を活用するためには、まず、教員が新聞を読むことが必要です。授業で使わなくても、教員を続けていく限り、新聞を読むことは大事なことです。

1 新聞を読む五つの基本

・早く読もう……新聞社は、新しいニュースをできるだけ早く読者に届けるために努力しています。その努力を無駄にしないためにも、早起きして、大きなニュースにだけでも目を通しましょう。我が家に朝日新聞の朝刊が届くのは午前4時少し前で、玄関扉の新聞受けに入る音を聞いて、玄関に向かいます。NIEを進めるためには、早寝・早起きも必要です。

・毎日読もう……新聞は毎日配られます。新聞を指す英語の「journal」という言葉は、フランス語の「jour」（日々）が語源になっています。毎日、1面の大きな記事と決まったコラムには必ず目を通すようにします。

・複数紙を読もう……2010年に亡くなった作家の井上ひさしさんは、スポーツ紙を含めて毎日7紙を読んでいたそうですが、複数紙の定期購読は経済的にも厳しいので、必要に応じて2紙目、3紙目をコンビニで購入して読んでほしいです。早朝のテレビ番組での朝刊記事紹介を見ることも勧めます。

・事実を読み取ろう……複数紙を読むのは、出来事をより詳しく知るためですが、比べて読むことにより、記事の間違いや新聞社による報道姿勢の違いも分かります。

・予測して読もう……どんな記事が1面のトップを飾るのか、社説に取り上げられるのはどんな事柄なのかなど。

2 新聞を授業で使う上での配慮

・子どもに新聞を持参させる場合は、使用する日の前日か前々日の新聞にします。当日の新聞は家族も使うので避けます。

・新聞を購読していない家庭の子どももいることを前提に、準備してください。事前に販売店にお願いしておけば、用意してもらえます。新聞をとっていない家の子どもや、持参を忘れた子どもに与えるとよいです。

(鈴木伸男 全国新聞教育研究協議会顧問)